



います。また、忙しい親が、子連れで公共図書館まで行って本を借りるのは大変です。だから保育園のような毎日通う場所に設備があって、送り迎えのときに気軽に本を借りられるのが良いと思います。

副園長先生 図書館を整えると、園児が本を丁寧に扱うようになる変化がありました。「借りてきたものだよ」となると、子どもも本を大事にするのかもしれない。

■園のファンが増える

副園長先生 宮古島では少子化が進み、多くの園で定員割れが起きはじめている状態です。本を貸出していることは、保護者のクチコミを通じて、すこく園の宣伝になっています。保護者や子どものことを考えてくれている園だと思ってもらえるようです。

園長先生 図書館を良いと感じて、うちの保育園の方針に乗ってくれるような保護者が自然と集まってきますね。

■さいごに

園長先生 1冊の本を読み終えて行く過程で、自己を照らし合わせたり、感情を起伏させたりして人間らしい成長を促す読書は、今後ますます重要になるでしょう。今後は、忙しい保護者や、旅をする時間が取れない家族のために、世界の伝統や風景を見られるようなコーナーも作ってみたいです。図書館の夢はまだまだ続きます。



■読書の大切さ

園長先生 本は感情を育てます。そして、言葉が発達すると視野も広がり、理解力が上がります。図書館は、そういった読書の基礎をつくる場所です。私自身も、本を読むことで自分を育て、本が人生の助けになってきました。そういった経験を子どもたちに積ませていく上で、図書館という場所が用意されていて、そこで本を読めることが大切だと思います。多様な本を置いておき、子どもたちがあとで思い出したりできるようなものを投げかけておきたいです。

副園長先生 やっぱり本を読む子って、集中力があって普段も落ち着いています。なので、そういう機会を、私たちがどんどん与えていきたいです。

■導入までの経緯

副園長先生 図書館は開園当時からありましたが、人手を割く事が難しく貸出しはできていませんでした。色々なところに相談しても、操作が複雑でコストの高いシステムしか紹介してもらえません。仕方なく自分で探し始めて、見つけることができたのがカリコレです。シンプルでわかりやすい画面が目飛び込んできました。



職員 デモ用の URL を実際に触ってみて、「これだったら誰でも気軽に扱えそうだな」となりました。

■操作がかんたん！

職員 本の登録は、いただいた Excel に ISBN 番号を入れてボタンを押すと、タイトルや作者が自動で表示され、面倒な作業がありません。

貸出し・返却については、保護者から「どうやってやるんですか？」って訊かれると時間が取られるなどと思ったのですが、最初に少し説明をすれば、あとは訊かれません。今では説明書きだけ置いています。

副園長先生 保護者は急いでいるので、好きな時間に気軽にパッと借りたい。だからシンプルなのがいいですね。子どもでも4、5歳なら自分で扱えるかもしれません。

■システムだからこそ良さ

副園長先生 もしシステムではなく紙に書いて貸出し・返却をしたら、それを管理する人が必要になっていたと思います。

園長先生 システムで管理すると、職員が付いていなくても「誰が借りた」「何回借りた」というのがデータでわかって安心です。また、どんな絵本がどのような年齢帯の子に人気なのかも把握することができるので、新しく絵本を買う際の参考にしています。

■保護者にも子どもにもメリット

園長先生 園には家庭が裕福ではない子ども